

図書館ひろば



10年目を迎えた「つなぐ会」 代表・山本宏義

「つなぐ会」は、2009年6月に発足しましたから、今年は10年目になります。

最初から続けているイベントが「図書館ひろば」です。市立図書館の大集会室、中集会室、視聴覚室をお借りして、同時進行でいろいろなイベントを行っています。大集会室では、一昨年から古本市を始め、時間差で講演会なども行っています。昨年は初めての試みで「講演」を演じていただきましたが、とても好評でした。今年の企画は、今準備中です。楽しみにしてください。

ここ数年定着してきた「調べ学習講座」ですが、今年の計画がほぼ固まりました。主に小学生を対象にして、図書館の本やパソコンを使って自分のテーマについて調べ、新聞や、ポスター、巻物などの形にまとめるもので、夏休みを中心に実施します。会場は市立図書館、相武台分館、橋本図書館で予定しています。

また、学習会としては、学校図書館に関する学習会をここ数年継続しており、今年も計画しています。そのほか。視覚障害者サービスに関するもの、読み聞かせボランティアを対象にしたものなど、計画がまとまれば実施

したいと思っています。

さて、今年の大きなテーマは、市立図書館の再整備の問題です。昨年発表された「淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）」では、図書館、公民館、青少年学習センター、など8つの施設を集約して複合施設を鹿沼公園の中に作り、老朽化した各施設の再整備と地域の活性化を図ろうというものです。昨年度のうちにパブリックコメントが行われ、今年中に計画案がまとまる予定となっていました。どうやら進行具合は大分遅れているようです。

ただ、図書館については「相模原市図書館基本計画」によって、市立図書館を中央図書館として整備するとうたわれていますが、その中身が具体的に示されていません。淵野辺駅南口公共施設の再整備がどのように進むとも、その複合施設の中に入ることになる中央図書館のありかたを早急にまとめる必要があります。そして、図書館の再整備が進み、市民に愛される中央図書館が一日も早く実現できるよう、市議会にも陳情し、他の団体とも協力していきたいと思っています。

図書館と市民をつなぐ会・相模原 会員募集中！

一緒に活動していただける正会員を募集しています。

また、賛助会員として協力していただける方も募集しています。

年会費 正会員 1000円（学生 500円）

賛助会員 1口 2000円



総会が開催されました

2018年4月21日(土)大野北公民館にて総会が開催されました。来賓に相模原市立図書館 岡本達彦館長、同郷司尚子担当課長、相模原市書店協同組合 中村宣勝理事長をお迎えしました。

はじめに代表の山本より「図書館ひろば」をはじめ、つなぐ会を運営するにあたり、図書館および書店協同組合からの協力に感謝の言葉がありました。

続いて、岡本館長が、昨年からの複合施設の計画や中央図書館機能の検討など図書館としても大きな転換期ですが、市民みなさんに愛される図書館を目指したい、とお話してくださいました。さらに中村理事からは、週刊誌等では「(出版社としては)図書館で文庫本を購入しないでほしい」といった報道にもあるように、出版・書店業界は書籍の売上について危機感を持っている。日本においては、図書館は地域の生涯学習を支援する機関としてあってほしいと願っている、とご挨拶されました。

総会議事では4つの議案について審議し、つつがなく終了しました。

後半は、参加メンバーで親睦をはかるため、自己紹介や最近の活動報告などを行い、和やかな中で2018年度をスタートできました。お忙しい中出席して下さったみなさま、ありがとうございました。



学校図書館大交流会 報告

2018年3月10日(土)、第22回「学校図書館大交流会」が開催されました。この「大交流会」は神奈川県内各地で活動する学校図書館関係者が、ゆるやかにつながって情報交換をするために始まりました。今回午前は横浜市立一本松小学校の図書館を見学、午後は別の会場にて情報交換会、という二部構成でした。

午前の本松小学校では、学校司書の高草木友香理さんから、日常の利用状況の紹介や、「図書の時間」で小学校2年生向けに行うブックトークの実演をしていただきました。質疑応答では、分類番号の桁数について、高学年の図書の時間の利用状況、予算、電算化についてなど、多くのやりとりがありました。その後、自由に図書館内を見学しました。2020年度から始まる英語教育に合わせて、英語の資料が充実していたのが印象的でした。

午後は、一本松小学校から徒歩10分ほどの距離にある、神奈川県高等学校教育会館ホールにて「研修」をテーマに各地の情報交換を行いました。横浜市、川崎市、鎌倉市、相模原市、藤沢市、SLiiiC&調布市(東京都)における学校司書向けの研修の開催状況について、各5分程度の報告がありました。その他にも、南足柄市、小田原市、八王子市(東京都)、座間市、横須賀市の参加者からも報告がありました。学校司書の配置状況や勤務実態が違うため、研修の内容や頻度など地域によって大きく違うことがわかりました。後半のフリートークでは、2020年4月から施行される「会計年度任用職員」制度に関する話題が主な話題となりました。2018年度中の動きがポイントになるようなので、相模原市の動向にも注視していきたいと思いました。

(中塚 ゆり子)

「淵野辺駅南口における公共施設の 再整備とまちづくり」の ワークショップに参加して

3回のワークショップを終えて、参加したつなぐ会会員、渡邊さん、矢部さんからの報告です。

【報告 1】

家庭でもなく、職場や学校でもない……“第3の場所”のことを「サードプレイス」と言うそうだ。人々が居心地がよくくつろげる、そして地域社会での人と人とのつながり（コミュニティ）をよりよく築いていく機会と場所。そうした生活上で大切な「サードプレイス」こそ「グレートグッドプレイス」だと、米国の社会学者レイ・オルデンバーグ氏は1989年の原著で強調した。彼がいう「サードプレイス」にこめられた人々への思いとは？

昨年12月から本年1月にかけて、市立図書館主催のワークショップが3日間開かれた。その名も「あったらいいなっ！こんな場所！～サードプレイス@ふちのべー」。私は全日参加して、“図書館も一つのサードプレイスかも！？どうあったらよいか”と考え続けていた。主催者側の市立図書館関係者は、「今後淵野辺に設置される計画の複合施設や新・中央図書館を“市民のサードプレイスの一つに！”との願いをこめて、参集を呼びかけたと推察する。この思いが果たして参加者に届いたかはわからない。が、“第3の場所としての図書館の存在価値”に着眼した集いは今までにない切り口で、私には新鮮だった。市立図書館が主催して、近未来の公共施設のことを市民が考え意見を出し合う集いを計画・実施したことそれ自体に、私は大きな意義があると感じている。年末年始にも関わらず、せっかく40名ほどが参集したのだから、図書館はこの方々とのつながり（コミュニティ）を

大切にし、私たち市民も互いの存在をたたえ合いつつ、人間的なつながりが今後築けたら嬉しい。

図書館の存在をきっかけにして☆☆

（渡邊 健一）

【報告 2】

淵野辺駅南口地区の集約、複合化のワークショップ2回目に参加した時に、進行役の方が「今回のワークショップの目的は、皆様の希望を形にするための理想や希望、意見を語っていただきたかったので、現実の市の予算や作成案は出さない」という話をされていました。実は、その前日に大野北公民館の利用サークル懇談会に参加し「どう変わる？公民館～複合施設になって、どうなるのか～」という市の作成案を伺っていたことと、（実際の5施設を見学出来たのは良かったが）施設のどこの担当者も課題や困っていることを中心に話されていたこと、それに加えて、ワークショップのメンバーの淵野辺南口地区に対する熱い思い、それを限られた敷地の中で、どのように具現化していくのか？を考えると、7施設を一つにすることで、起こりうるマイナス面から、少し感情的になり、不安が増してしまった人が多かった気がします。（私事で3回目を欠席してしまい、最後まで関わらず、残念でした）もう一つ、残念だったのは、今回の参加者の中で図書館に興味、関心のある方があまりいらっしゃらなかったことです。どうしたら「図書館」について市民に興味をもってもらうか、私たちの課題を改めて思い知らされた気がしました。

最後に、相模原市が物理的な限りのある中で、皆の熱い思いをワークショップや説明会だけで終わらせるのではなく、時間はかかったとしても、市民と一緒に作る～市民ファーストで進めていって下さることを期待します。

（矢部 裕子）



会員つなぐコラム

木村 瀧雄 さん

相模原の相模線、原当麻駅の近くに麻溝公民館がある。その二階に麻溝図書室があるが、室という名の通り小さな部屋と思えばよい。家から近いので時々行くが、何しろ小さいのと、小学校の児童が放課後來て読書をするので、午後3時頃は混んで頗るせわしい。私は散歩がてら寄ると女性が応対するが、私の名前と顔を知っているのが笑顔で会話する。先日、前の返納と共に日本の昔の古典文学書を検索、お願いしたが容易に見つからない。だが、30分程して「1冊ありました」と机に座っていた私に分厚い赤い表紙の本を差し出してくれた。わざわざ探してくれたのだろうか、感謝の気持ちで心が一杯になる。

「方丈記」「歎異抄」「正法眼蔵」「徒然草」この四つが一冊にまとまって居る本だが、これは今まで一度もなかった珍しい組み合わせではないかと思う。「方丈記」とか「徒然草」は一般に知られているわりには、内容を詳しく読んでいる人は少ないのではないだろうか。訳本は誰でも知っているので、今回は私も勉強のために、京都・丹波町にある真言宗古拙（大副光寺）に現存する作者自身の自筆本をエッセーに記してみた。

「ユク河ノナガレハタエヅシテ、シカモモトノ水ニアラズ、ヨドミニウカブウタカタハ、

カツキエカツムスビテ、ヒサシク、トドマルタメシナシ」

訳本の最初の言葉は暗記で頭にあり「川は涸れる事なく何時も流れている。そのくせもとの水ではない」は憶えているが、次の「よどんだところに浮かぶ水の泡は、あちらで消えたかと思うと、こちらにできていたりして、けっしていつまでもそのままでない」は、憶えていなかった。

「方丈記」に出てくる水は難しい感があるが、これを普通の川の水と考えれば差ほど難しくはないと思う。近くに流れている川を見ても同じだからである。家の側にも「姥川」と「鳩川」という二本の狭い川が流れている。この川の橋から流れを見ると矢張り流れは同じではない、と気付く事がある。姥川も鳩川も相模川に合流する。相模川は一級河川で川幅は広いので、その流れは緩やかで流れもおそくゆったりした感じであるから余りその変化に気がつかない。中小の狭い川は、流れも早いため泡もありその変化は激しい。小さい川は、方丈記にあるヨドミもありその変化を簡単に見ることが出来る。一方大きい広い川はヨドミもなく泡も殆ど見られない。

鴨長明も「方丈記」にはこの事を書いたのではないだろうか。「方丈記」「歎異抄」「正法眼蔵」「徒然草」の四つの中から「方丈記」のみを記したが、後の三つも人間生きていくうえで大事な事が網羅されていた。

(寄せていただいたエッセーを一部抜粋させていただきました)

編集後記

先日第1回の運営委員会が開かれました、早速第10回「図書館ひろば」の企画を話し合いました。今年度も充実した1年になりそうです。(Y.N.)

図書館ひろば 第19号 2018年5月31日発行

〒252-0302 相模原市南区上鶴間4-23-3 Tel 090-4947-7147 (代表 山本)

Email info@toshokan.org ホームページ <http://toshokan.org/>